

| 番号                  | 21   | 令和2年度公共事業再評価調書    |             |             |        | 担当課名  | 港湾整備課 |       |                   |             |
|---------------------|--|-------------------|-------------|-------------|--------|-------|-------|-------|-------------------|-------------|
| 事業名                 | 港湾改修事業   |                   |             | 事業主体        | 静岡県    |       |       |       |                   |             |
| 箇所名                 | 下田港  |                   |             | 市町名         | 下田市    |       |       |       |                   |             |
| 事業採択年度              | 平成8年度  |                   | 計画期間        | 平成8年度～令和3年度 |        |       |       |       |                   |             |
| 用地着手年度              | —  |                   | 工事着手年度      | 平成9年度       |        |       |       |       |                   |             |
| 再評価理由※              | 再評価実施（H27）後5年間に経過した時点で継続中  |                   |             |             |        |       |       |       |                   |             |
| 全体事業費               | 百万円  | 投資状況<br>（百万円）     | ～H30年度      | R1年度        | R2年度見込 | 計     |       |       |                   |             |
|                     | 2,204  |                   | 1,727       | 136         | 145    | 2,008 |       |       |                   |             |
| 事業概要                | <p>(1) 事業目的<br/>下田港は、周辺の漁港や伊豆諸島からの避難港であり、その沖合は金目鯛の良好な漁場であるが係留施設が不足している。このため、台風等の荒天時における避難船舶の係留や金目鯛漁船の出漁準備のための物揚場等を整備するものである。</p> <p>(2) 事業内容<br/>武ヶ浜物揚場（-3.5m）延長70m、武ヶ浜泊地 面積2,200m<sup>2</sup><br/>外ヶ岡物揚場（-4.0m）延長200m</p>   |                   |             |             |        |       |       |       |                   |             |
| 事業の必要性              | <p>【視点1】</p> <p>(1) 事業を巡る社会情勢等の変化<br/>・ 漁業就業者の高齢化の進行や後継者不足が深刻化していることから、水揚げ待ち時間削減のための整備を早期に実施し、就労環境の改善を図る必要がある。<br/>・ 台風の大型化により避難船舶の増加が見込まれることから、荒天時における係留施設の整備が急務である。</p> <p>(2) 事業の投資効果<br/>費用対効果（B/C）：1.2、経済的内部収益率（EIRR）：5.9%<br/>総便益：46.7億円<br/>（港内の海難事故減少、水揚げ待ち時間の削減、多重係留コストの削減）<br/>総費用：37.6億円<br/>（建設費：37.1億円、維持管理費：0.6億円）</p> <p>(3) 事業の進捗状況（令和2年度末見込み）<br/>【事業費】 91.1%（2,008百万円／2,204百万円）<br/>【事業量】 武ヶ浜物揚場・泊地 100.0%（平成16年度完了）<br/>外ヶ岡物揚場 80.0%（160m／200m）</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 10%;">評価</td> <td>継続が妥当</td> <td>・ 視点3による見直し後継続が妥当</td> <td>・ 継続は妥当ではない</td> </tr> </table> |                   |             |             |        |       | 評価    | 継続が妥当 | ・ 視点3による見直し後継続が妥当 | ・ 継続は妥当ではない |
| 評価                  | 継続が妥当  | ・ 視点3による見直し後継続が妥当 | ・ 継続は妥当ではない |             |        |       |       |       |                   |             |
| 今後の事業の進捗の見込み        | <p>【視点2】</p> <p>・ 本事業の物揚場整備については、早期に事業効果を発現させるため完成区間から順次供用を開始しており、事業完了に対する漁協からの期待も大きいことから、今後も順調に進捗する見込みである。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 10%;">評価</td> <td>継続が妥当</td> <td>・ 視点3による見直し後継続が妥当</td> <td>・ 継続は妥当ではない</td> </tr> </table>  |                   |             |             |        |       | 評価    | 継続が妥当 | ・ 視点3による見直し後継続が妥当 | ・ 継続は妥当ではない |
| 評価                  | 継続が妥当  | ・ 視点3による見直し後継続が妥当 | ・ 継続は妥当ではない |             |        |       |       |       |                   |             |
| 新たなコスト縮減・代替案立案等の可能性 | <p>【視点3】</p> <p>・ 事業完了まで残りわずかとなったが、発注単位や発注時期の工夫により、引き続きコスト縮減に努める。</p>  |                   |             |             |        |       |       |       |                   |             |
| 対応方針案               | <p>(1) 対応方針案<br/>本事業を（継続）・中止）する。</p> <p>(2) 理由<br/>事業は順調に推移しており、地元（漁業関係者）からの早期完成に対する期待も高く費用対効果も認められることから、継続して早期完成を図る。</p>  |                   |             |             |        |       |       |       |                   |             |

## 費用対効果の算出説明書

### 下田港 港湾整備事業

(「港湾整備事業の費用対効果分析マニュアル 平成29年3月」国土交通省港湾局)

#### 1 分析設定

- ・供用年数 50年
- ・社会的割引率 4%
- ・費用対効果分析の基本的な考え方  
「港湾整備事業の費用対効果分析マニュアル 平成29年3月」

#### 2 分析結果

##### 総括表

|      |  |        |
|------|--|--------|
| 総便益B | 「港内の海難事故減少便益」<br>「水揚げ待ち時間コスト削減便益」<br>「多重係留作業コスト削減便益」 | 46.7億円 |
| 総費用C | [建設費]+[評価期間内に必要な維持管理費]                               | 37.6億円 |
| B/C  | 費用対効果  | 1.24   |
| EIRR | 経済的内部収益率   | 5.91%  |

※「港内の海難事故減少便益」: 船舶の海難に伴う損失額の削減効果による便益

※「水揚げ待ち時間コスト削減便益」: 漁船の滞船コスト削減効果による便益

※「多重係留作業コスト削減便益」: 多重係留の解消に伴う作業コスト削減効果による便益

##### 総便益

年平均便益を社会的割引率4%、評価対象期間50年とし、現在価値化する。

・「港内の海難事故減少便益」=  $\sum$  年平均減少額 /  $(1+0.04)^n = 41.6$ 億円

・「水揚げ待ち時間コスト削減便益」=  $\sum$  年平均コスト削減額 /  $(1+0.04)^n = 4.9$ 億円

・「多重係留作業コスト削減便益」=  $\sum$  年平均コスト削減額 /  $(1+0.04)^n = 0.1$ 億円

便益計 = 「港内の海難事故減少便益」 + 「水揚げ待ち時間コスト削減便益」 + 「多重係留作業コスト削減便益」 = 46.7億円

##### 総費用

建設費: 37.1億円、維持管理費: 0.6億円、評価対象期間: 50年

費用計 =  $\sum$  年間建設費 /  $(1+0.04)^n + \sum$  年間維持管理費 /  $(1+0.04)^n$   
= 37.6億円

# 下田港 港湾改修事業 再評価

交通基盤部 港湾局 港湾整備課



下田港内港(稲生沢川河口)における荒天時の避難船約280隻(うち他港から約90隻)

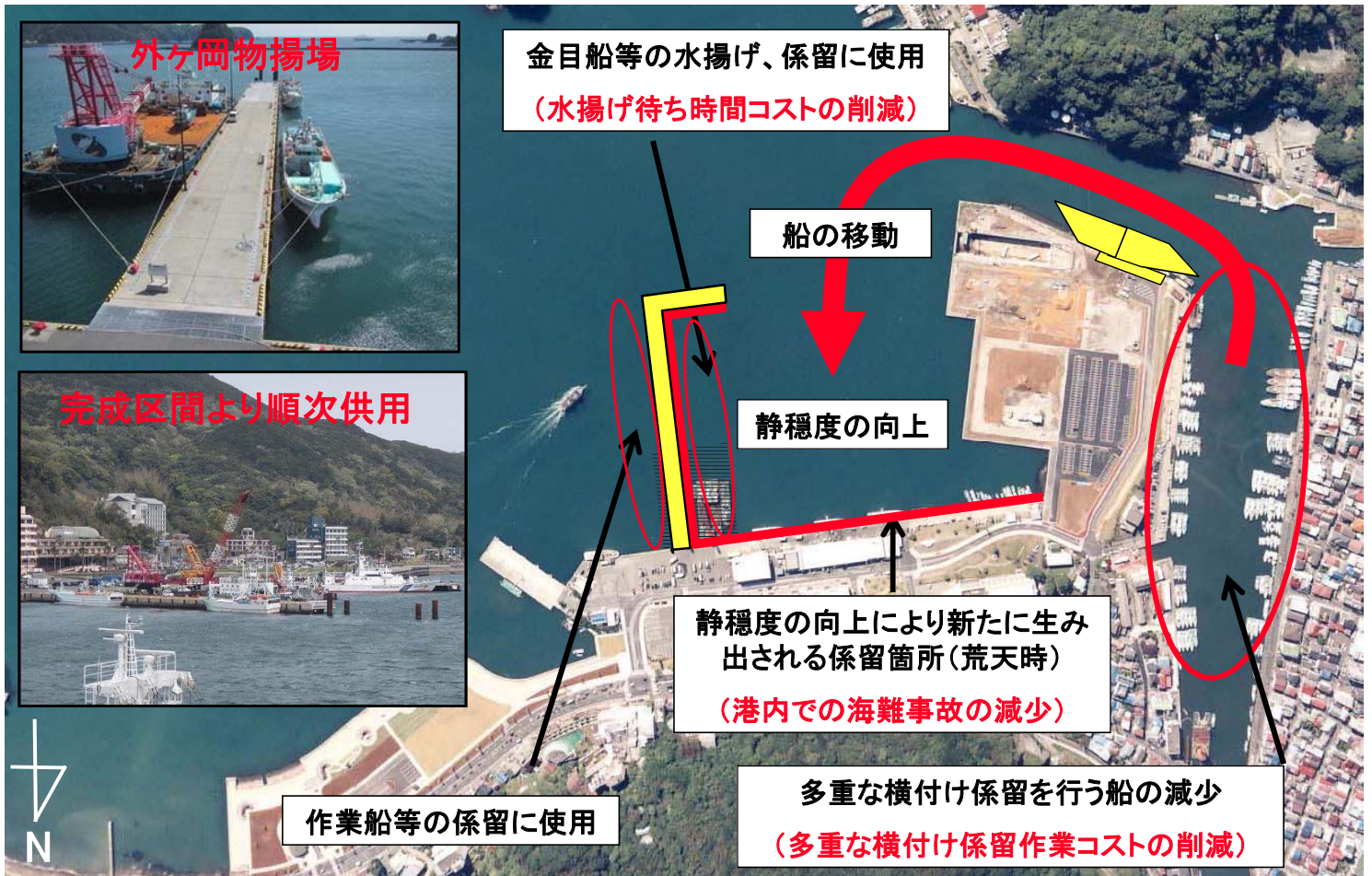
## 1 事業概要

- ・事業期間 : 平成8年度～令和3年度
- ・事業費 : 約22億円
- ・事業対象 : 武ヶ浜物揚場 延長70m、武ヶ浜泊地 面積2,200m<sup>2</sup>  
外ヶ岡物揚場 延長200m
- ・事業目的 : ①荒天時の避難係留場所の確保(外ヶ岡物揚場)  
②漁船の出漁準備係留場所の確保(武ヶ浜物揚場)





## 2 事業効果



## 3 事業の投資効果(費用対効果の検証)

総費用(C) = 37.6億円(現在価値換算)

|        |         |
|--------|---------|
| ・事業費   | 37.06億円 |
| ・維持管理費 | 0.56億円  |

総便益(B) = 46.7億円(現在価値換算)

|            |         |
|------------|---------|
| ・海難事故減少便益  | 41.63億円 |
| ・時間コスト削減便益 | 4.93億円  |
| ・作業コスト削減便益 | 0.10億円  |

総費用(C)に対する  
総便益(B)

$$B/C = 1.24$$

### 対応方針(案)

事業は順調に推移しており、地元(漁業関係者)からの早期完成に対する期待も高く、費用対効果も認められることから、継続して早期完成を図る。